

夢応援 頑張れる空気が



ピアニスト

山中 歩夢さん (30) = 2007年卒



川西達也撮影

姫路西高校

兵庫県姫路市

■入学時に決意
ピアノを始めたのは5歳の時。音楽マンだった父親の転勤に伴って、中学1年生から姫路市に住み始めた。紹介してもらった兵庫県明石市のピアノ教室では「自分より上手な子がいっぱいいた。ハイレベルな仲間を見て、一旦ピアノとは距離を置き、受験勉強に専念。音楽科がある高校は選ばなかった。」

それでも西高入学と同時に「やりたいことは何か」と考え直すと、やっぱりピアノだった。「またピアノをやりたい、東京芸術大に行きたい。」そう告げると、ピアノの先生には怒られた。「なんで音楽科がある高校へ行かなかったの!」だが、西高の担任だった富士原正雄先生は「頑張れよ」と応援してくれて、2年時の担任、山村

やまなか・あゆむ 1988年生まれ。幼少期は東京や広島、山口、香川と転居を繰り返した。東京芸術大学卒、同大学院修士課程修了、ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽大学ピアノソリスト課程修了。6月30日14時から東京・ヤマホール(中央区銀座7)でハンガリー帰国記念のリサイタルを開催する。

が難しかった。そんな高校2年の時、全日本学生音楽コンクール(毎日新聞社主催)大阪大会本選で2位。音楽の中嶋京子先生だけが「これはすごいこと!」集会で表彰をしてあげました。学校で分かってくれた。学校では良くも悪くも「山中が

わたしの母校

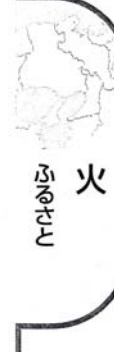
ハンガリー留学から帰国し、神戸を拠点に活動するピアニスト、山中歩夢さん(30)。音楽科のない兵庫県立姫路西高校で「将来のために」今できることを精いっぱい頑張りたい」と教わった。夢に向かって頑張れる空気があった」と振り返る。

【前本麻有】

■音楽室で練習
春にある文化祭。テーマから全て自分たちで考えて作り上げるのが印象深かった。ステージで、影絵を披露する間に自分が作曲したピアノ曲を弾き続けた。

春にある文化祭。テーマから全て自分たちで考えて作り上げるのが印象深かった。ステージで、影絵を披露する間に自分が作曲したピアノ曲を弾き続けた。

海外コンクールに出場時、こう語った。「50代はピアニストになりたい」。社会や人々に身近で「役に立てるようなピアニスト」を目指して歩み続けている。



火 火
ふるさと
水 カルチャー
木 ちよい旅
金 見・聞・楽
土 学ぶ・育つ・挑む

実技を磨くためレッスンを受け、東京まで通った。高校時代の授業前にあった英単語テストで鍛えられたおかげで、単語だけは数多く覚えていたとコミュニケーションには困らなかつた。

米朝さん、「ラッパ部」に所属

人間国宝の落語家、三代目桂米朝さん(1925~2015)は後に姫路西高となる旧制姫路中学出身だ。1943年に卒業した米朝さんの在学時は戦時中。授業には、足にゲートルを巻き、鉄砲の扱い方を学ぶ「軍



桂米朝さん—大阪府北区で2012年1月2日、三村政司撮影

視線を集める工夫をはじめ、「落語はドラマ。江戸なら江戸、明治なら明治の世界へお客さんをお連れすることができます」と巧みな話術を披露した。地元文化振興にも貢献してきた。72年の姫路市文化センターの開館を記念して始まった「姫路落語会」には、第1回(73年)から2008年まで毎回、積極的に参加してきた。米朝さん亡き現在も、弟子の桂さこばさん、息子の桂米田治さんらが出演し、人気の落語会となっている。

人間国宝の落語家、三代目桂米朝さん(1925~2015)は後に姫路西高となる旧制姫路中学出身だ。1943年に卒業した米朝さんの在学時は戦時中。授業には、足にゲートルを巻き、鉄砲の扱い方を学ぶ「軍